
年賀状に関するetc.

風谷花南

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

年賀状に関するe t c .

【Nコード】

N0847BA

【作者名】

風谷花南

【あらすじ】

郵便屋さんと高校生。

普通に生活する上では交わらないはずの人生が年末のバイトというきっかけから交差した時、何が起るのか。

おそらく95%の確率で何も起こらない。

顔見知りのよしみなどで仲良くなる確率4%。

残りの1%は……

私、嫌われてる！？（前書き）

新年明けましておめでとうございます。

私の友人は皆、年賀状の仕分けバイトなるものをしてるそう
でこれがまたなかなか大変なんだとか。

守秘義務に差しさわりのない程度に取材して書いたので正直色々
不安ですが

郵便局の内情を知ってる方は

（違うよこんなことしてないよ）

とかいうことがあっても見て見ぬフリをしてください（ ）

一応守秘義務は犯してないと思います

生温い目で見守っていただければ幸いです。

私、嫌われてる!?

年末。

人々はどこことなくそわそわして

スーパ―にはお節の材料が並び

デパートは売り尽くしセールで賑わい

町内はどこを見回しても門松やお正月飾りが目につく

私は大掃除に明け暮れ

普段は絶対に上らせてもらえないベランダの室外機の上から

普段とは違う外の景色を眺めながら窓を拭く

年賀状を25日までに出そうと毎年思うのに

結局29日前後にあわてて投函するのもまた毎年のこと。

4

時期が余程遅くない限り年賀状はポストに投函すれば1月1日に相
手のもとに届く

それは当たり前なことだと誰もが思っている。

だけど

その当たり前前なことの裏にどんな仕事がなされているかなんて
考えてみたことのある人はどれだけいるんだろうか。

いつもとは全く違うお正月を過ごすことになるとは知らずに申し込
んだ郵便局の仕分けバイトを

私は今年している。

「おはようございます」

午前11時に果たしておはようございますという挨拶が適切なのが分からないまま中途半端に頭を傾ける。

「おはようございます。今日もたくさん届いていますので、区分のほうよろしく願います」

しかし、帰ってきた返事は今日もにべもないものだった。

私の配属された2班の担当者である金城さんは、二十代後半だろうに、年不相応な程落ち着いていて無愛想な男性だ。

寡黙と言えば聞こえはいいけれど正直何を考えているのかわからないし、いつも怒ったような顔をしているから、できる限り接触を持ちたくないのに。

「ではこのマンションから願います」

この人に何か言われる度、なぜか怒られているような気持ちになる。

今日最初の区分は雲が丘グリーンマンションだった。

雲が丘はニュータウンで、団地やらマンションやらがたくさんある。そのうち、金城さんの管轄内の番地のマンションは雲が丘グリーンマンションとニューグランド雲が丘。

マンションは2つだが、どちらも高層の大規模なもので、それぞれ部屋数は100軒を超える。

マンションの区分は部屋番号にだけ目を配ればいから、比較的楽だということでも今年初めて区分をする私にはマンションの区分ばかり回ってくる。

けれど、バイトが始まってもう五日。新年も目前で、区分しなければいけない葉書の量も増えてきている。

金城さんの元で働くアルバイトは私のほかにもう一人、斉田さんという仕事のできる子がいるけれど、住宅地の仕分けは、私がマンションばかりやっているせいで全て斉田さん任せになってしまっている。

大分仕事に慣れてきたと思いたい私は、マンション以外の仕事もやりたいと思ったりもするのだけど。

「……さん。野崎さん」

「っあ、はい」

いけない。ついぼーっとしてしまった。

あわてて返事をするけれど、金城さんの眉間にはなんだかしわが寄っているような……

……やめよ、考えるの。

脳内で独りごちている私を余所に、金城さんはヘルメットを片手に口を開く。

「私はこれから配達に行きますので、わからないことがあったら近くの職員に聞いてください。マンションの区分が終わったらこちらの列から左を斉田さんと一緒にやっていてください。」

ふと隣を見ると斉田さんはうなずいていて、私も慌ててうなずく。

「では、しばらくしたら戻るので。頑張ってください」
そう言っって背を向けるけど。

なんか。

なーんか。

話すときに斉田さんの方しか見てないような気がするのは気のせいなんだろうか。

やっぱり私、絶対嫌われてる。

その事実を再確認して、金城さんが更に苦手になった気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0847ba/>

年賀状に関するetc.

2012年1月1日23時49分発行